

## 「第1回骨粗鬆症サポーター協議会」の報告

北葛北部医師会 大山重隆

2018年7月7日に第1回骨粗鬆症サポーター協議会が開催されました。まず始めに、堀中 晋理事より骨粗鬆症サポーター協議会の設立と、幸手・杉戸地域での介護となる人の原因の1位が骨粗鬆症であり、介護予防において骨粗鬆症・転倒予防の取り組みが重要である事のお話がありました。

基調講演として、東埼玉総合病院副院長の浅野 聡先生より、幸手・杉戸地区での骨粗鬆症患者の現状、骨粗鬆症・転倒予防への取り組みにおいて、多職種連携、地域連携の重要性について講演をして頂きました。

この地域において、骨粗鬆症治療に関しての第一人者であり、学会でも活躍されている浅野先生がいらっしゃる事は心強い限りです。

二部として、多職種の方（看護師、薬剤師、理学療法士、放射線技師、地域医療部）をお招きして、「パネルディスカッション」を行い、それぞれの立場から御講演、御意見を頂きました。主な点としては以下になります。

- ・看護師の方からは医師に聞けない事を患者さんは持っており、看護師が相談に乗る事が大切で、相談用のブースも設けている。退院時に、骨粗鬆症のリーフレット、問診票を手渡している。

- ・地域医療部の方からは、DEXAの共同利用をすすめ、骨折しやすい箇所（大腿骨頸部、胸腰椎）の真の骨量を測定していく事が予防につながる。

- ・理学療法士の方からは大腿骨頸部骨折は生命予後にかかわる骨折であり、骨粗鬆症の予防、転倒予防のリハビリが大切である。

- ・放射線技師の方からは、MPR (multi planar reconstruction) : 新しいコンピューター画像処理について説明、CT、DEXAを積極的に用いた診断技術についての説明がありました。

- ・薬剤師の方からは、骨粗鬆症薬物治療の継続の大切さ、また、骨粗鬆症のリスク（リウマチ、糖尿病、COPD、ステロイド内服等）がある患者さんと医師との協働における骨粗鬆症予防への取り組みの報告がありました。

以上、多くの参加者のもとに有意義な講演、報告、ディスカッションを持つことが出来ました。